

令和七年度 一般選抜(前期日程) 国語(文学部) 標準解答例

大問1

問1 インタビューセッションをしていると、相手が共感をあてにして、聞き手の同意を取り付けるためにさまざまなテクニックを無自覚に用いるようになるので、聞き手が「!?」の声音で応えることによって、そうした共感への期待に応じることなく、また、良し悪しなどのジャッジもせずに、淡々と話を聞くようにしているということ。

問2 ドラマティックな語りにも淡白な語りにも、ある種の演技や技巧が潜んでいて、どちらの場合も、語る人の感情の揺れや身体に馴染んでいない声が「音のズレ」として感じられる点で、著書の気になるところが共通するということ。

問3 何が手に入るのかと質問することで、共感への期待や同意を取り付けようとする意図、話す際の演技といった技巧を相手に気づかせることができるため。

問4 何を失ってしまうのかと質問することで、切実に聞いてほしい願いとは、共感では届かない深いところの自覚されない訴えであると相手に気づかせるため。

問5 都会に住む人々のいう繊細さは、言葉によって権力関係を競い駆け引きを行うためのもので、そうした感性には、人間も自然の一部であり、誰しも自分の思いのままにはならない存在だという謙虚さがないということ。

問6 「完全に聞く」とは、話す相手が共感や承認(同意)を求めて強調する「意味」を受け取らず、ただその人の身体の状態、ありのままの姿を受け止め、また、傲慢にも相手の話を要約したり、解釈したり、善悪や正誤の判断をせず、「その人の話をその人の話として聞く」ことを通して、相手の隠された意図や、自覚されない訴えに到達しようとする状態のこと。

大問2

問1 ① 死んでしまったならば

② 思いがけない縁故

③ きまりの悪い思い

問2 打消の助動詞「ず」の未然形＋推量の助動詞「む」の已然形

問3 (作者が、命にかかわる病氣のため)愛宕の近くの住まいに移るということ。

問4 引越しの前にもう一度、かつて恋仲であった人に出くわす機会を得たことがうれしい一方で、(言葉も交わせないまま)一方的に見送るしかないことが悲しいという、相反する思いを抱いたから。

問5 1 (ア)

2 粗末で、頼りなさそうでありさまであること。

問6 重病で命の不安をおぼえる中、粗末な住まいでたったひとりで過ごすしかないことが心細く、ただお経だけを、つらさを忘れるためのよりどころにしている。

問7 (イ)

問1 ①一晩中、少しも寝ることができないで

②いつもはまったく取るに足らなくございます

問2 安徳天皇や平家一門全員が、無念にも海に沈んだこと。

問3 1 「菊の高浜」の「菊」は、波の音を「聞く」との掛詞。

2 現実はいうまでもなく夢の中でさえも都からの伝言は聞くこともなく、ここ菊の高浜で波の音ばかりを聞くことであるよ。

問4 戒定慧の文字を記した箱、そのしるしとして植えられた松が神秘的で、その光景に圧倒されてしまったから。

問5 染川…在原業平がかつて詠んだ川であるが、今はその跡形もなく、水まで枯れ果ててしまい、ただ昔の跡というだけになってしまった。

思ひ川…噂で聞いていたほどではなかったが、見所は多かった。かつて伊勢が詠んだ通り、絶えることなく水が流れているのは、歌人の詠んだことの真実味が実証され素晴らしい。

問6 筑紫に下向する大宰帥隆家に向けて、「涼しさは生の松原」と詠んだ枇杷太后宮は、実際に行ったことはないが生の松原が涼しい場所であることを知っている、ということ。

〔国語・漢文〕『三国志』および注の内容から出題。基本的な漢文読解の力を問う。

四（45点）

【解答例】（文学部用解答用紙）

問 1		問 2	問 3	問 4	問 5	問 6		問 7
(1)	(2)	諸葛瑾（子瑜）と諸葛亮（孔明）は兄弟であり、しかも弟が兄に従うのは道義にかなっているから。	孤当 _ニ 以 _レ 書解 _ニ 玄德 _一	諸葛瑾（子瑜）の言葉は天地神明を貫くほどの固い約束であった、今になってどうして私を裏切るなどということがあるだろうか、いや無い。	道義に適っていない事を言ったり行	た義に	② かは（わ）らざる	イ・ウ・キ
子瑜の孤に負かざるは、猶ほ（お）孤の子瑜に負かざるがことし。	諸葛瑾（子瑜）が腹心の者を劉備（玄德）のもとにやって内通しようとしているといううわさ。				心を裏切るなどということがあるだろうか、いや無い。	心を裏切るなどということがあるだろうか、いや無い。	心を裏切るなどということがあるだろうか、いや無い。	